関東信越国税局管内納税貯蓄組合連合会会長賞

『見えない応援』

柏崎市立第一中学校　三年　五十嵐　大起

この夏、毎日のように走ってきた柏崎市陸上競技場に、入れなくなった。改修工事のため閉ざされた競技場を前にしたとき、私は初めて、そこが自分にとってどれほど大切な場所だったのかを考えた。

私は陸上競技部に所属し、これまで数えきれないほどこの競技場を走ってきた。自己ベストを更新して喜んだ大会もあれば、思うような結果を残せず、悔しさを抱えて帰った大会もある。日々の練習では、息が切れ足が動かなくなっても、仲間と声を掛け合い、最後の一本まで粘り抜いた。そうした経験を重ねる中で、私は記録だけでなく、一つのことに全力で取り組むことや、簡単に諦めず、努力を続けることを学んだ。また、競技場を利用するうちに、管理してくださる方々の存在にも気付くようになった。整えられたトラック、準備された用具、安全に練習できる環境は、決して当たり前にあるものではない。多くの人の仕事によって、私たちはのびのびと走ることができていた。私は競技者としてだけでなく、支えてくれる人や環境に感謝できる人間へと成長できたのだと思う。

では、この競技場を改修し、維持していくためのお金は、どこから出ているのだろう。疑問に思って調べると、競技場の改修や維持は、利用する人が支払う料金だけでなく、私たちが納める税金によって支えられていることを知った。そのとき私は、税金が支えているのは建物や整備だけではないと気づいた。安全なトラックがあるから、思い切って走れる。大会が開ける場所があるから、目標に向かって努力できる。そして、その努力の中で、人は技術だけでなく、心も成長していく。税金は、施設の先にある一人一人の挑戦や成長まで支えているのだ。

もし柏崎市陸上競技場がなかったら、私は何か一つのことにここまで真剣に向き合う経験を得られなかったかもしれない。悔しさを乗り越える強さも、支えてくれる人への感謝の心も育たなかったはずだ。私は自分の力だけで成長できたのではない。顔も名前も知らない多くの人が納めた税金によって、挑戦できる場所を与えられていたのだ。以前の私は、税金を大人になったら払うものだと考えていた。しかし今は、税金とは、誰かの暮らしを守るだけでなく、誰かの可能性を広げるための「見えない応援」なのだと思っている。私が競技場で受け取ってきた応援も、いつか次の誰かへ渡していかなければならない。

将来、私も納税する立場になる。そのときは、ただお金を納めるのではなく、どこかで努力する誰かの一歩を支えているのだという思いを持ちたい。改修された競技場を再び走る日、私はきっと、自分の足元にある多くの人の支えを感じながら、トラックを踏みしめるだろう。その一歩一歩に込められた、見えない応援への感謝を胸に、私はこれからも走り続ける。